

表1-2-4 保健指導の方法からみた選定基準(対象特性)と形態

| 方法 | 対象特性 | 保健指導の例 |
|----------------------|--|---|
| 個別指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題が特殊で特別な配慮が必要と考えられる場合 2. 個人や家族が内密に相談したいと思っている問題 3. 問題を持つ人が家族、集団のキーパーソンになっている場合 4. 具体的な指導技術を必要とする問題 5. 健康問題が深刻で、継続的な関わりが必要と思われる問題 | <p>各種の健康診査事後指導 各種の健康相談 運動発達相談 老年期認知症相談 こころの健康相談</p> <p>家庭訪問 電話相談 受診相談</p> |
| グループ あるいは 集団指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域集団の因習や慣習、基準(暗黙のルール)に関わりを持つ問題 2. 特定の問題であっても、その解決に共通な問題点を持っている集団の場合 3. 年齢や社会的特性に共通性が認められる場合 4. 誰もが共通する生活条件整備として、より多くの意識高揚が必要な場合 | <p>健康診査結果説明会</p> <p>健康教育(知識学習、技能学習、態度学習、問題解決学習)</p> <p>組織づくり(患者家族の会の育成、介護者の集い、閉じこもり 予防活動、セルフヘルプ・グループづくり等)</p> |